



凡例

- 関西電力(株) G I ガン・マルチ (2013年調査)
- 関西電力(株) プーマー・ショートマルチ (2012年調査)
- 関西電力(株) ジオバルス・ショートマルチ (2006, 2007, 2008年調査)
- 関西電力(株) スパークー (1978, 1982, 1983年調査)
- 海上保安庁水路部スパークー (1979年調査)
- 地質調査所エアガン (1987年調査)
- 日本原子力発電(株) ウォーターガン・シングル (1998年調査)
- ||||| 後期更新世以降の活動が認められる断層及び拗曲
- |—|—|— 後期更新世以降の活動が認められない断層及び拗曲
- { } B層基底面に変形が及んでいる範囲

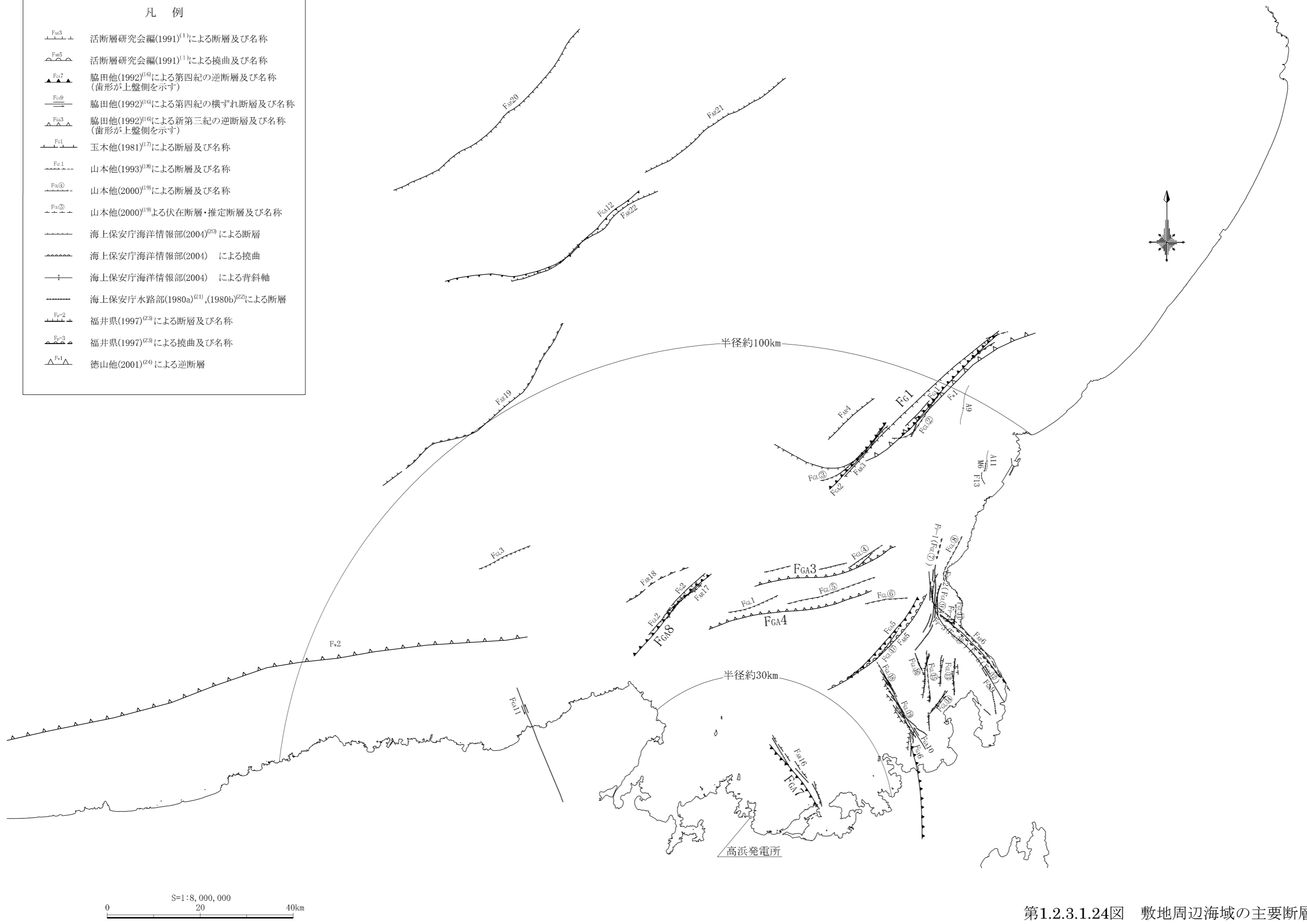
- 断層番号
- Fo : 高浜発電所敷地前面海域の断層
  - F : 美浜発電所敷地前面海域の断層として検討

第1.2.3.1.23図 敷地前面海域の断層分布図



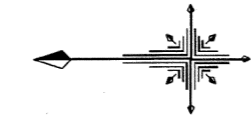
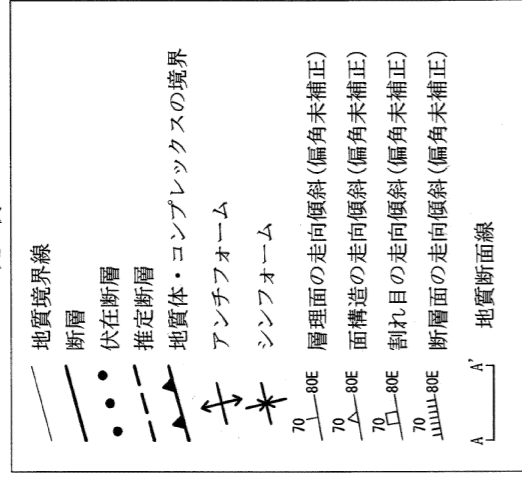
凡 例

	活断層研究会編(1991) <sup>(1)</sup> による断層及び名称
	活断層研究会編(1991) <sup>(1)</sup> による拗曲及び名称
	脇田他(1992) <sup>(16)</sup> による第四紀の逆断層及び名称 (歯形が上盤側を示す)
	脇田他(1992) <sup>(16)</sup> による第四紀の横ずれ断層及び名称
	脇田他(1992) <sup>(16)</sup> による新第三紀の逆断層及び名称 (歯形が上盤側を示す)
	玉木他(1981) <sup>(17)</sup> による断層及び名称
	山本他(1993) <sup>(18)</sup> による断層及び名称
	山本他(2000) <sup>(19)</sup> による断層及び名称
	山本他(2000) <sup>(19)</sup> による伏在断層・推定断層及び名称
	海上保安庁海洋情報部(2004) <sup>(20)</sup> による断層
	海上保安庁海洋情報部(2004)による拗曲
	海上保安庁海洋情報部(2004)による背斜軸
	海上保安庁水路部(1980a) <sup>(21)</sup> 、(1980b) <sup>(22)</sup> による断層
	福井県(1997) <sup>(23)</sup> による断層及び名称
	福井県(1997) <sup>(23)</sup> による拗曲及び名称
	徳山他(2001) <sup>(24)</sup> による逆断層

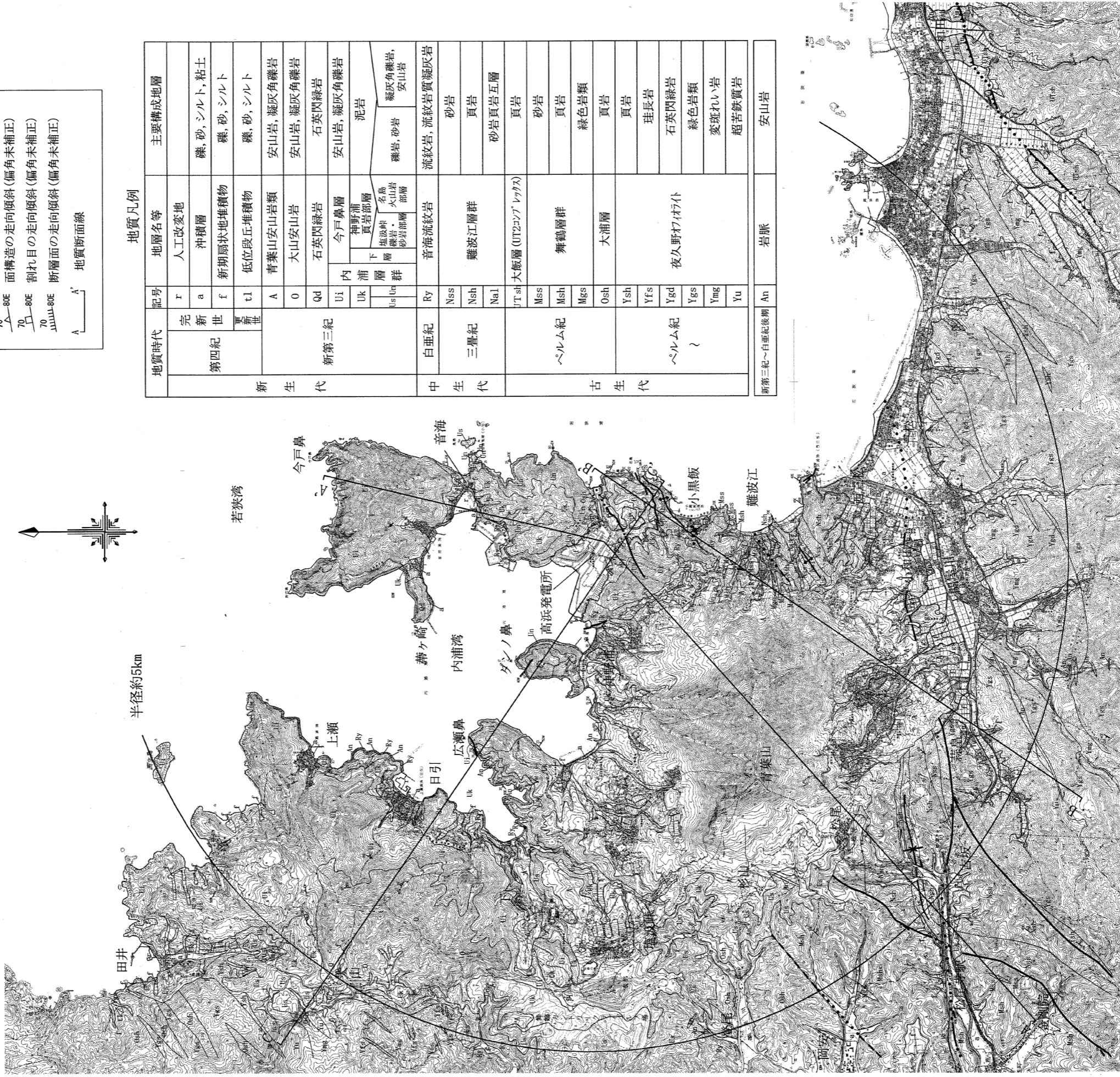


第1.2.3.1.24図 敷地周辺海域の主要断層分布図

凡例

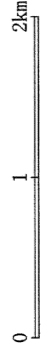


半径約5km



地質凡例

地質時代	記号	地層名等	主要構成地層	
新生代	第四紀	r	人工改変地	
		a	沖積層	
		f	新期扇状地堆積物	
	第三紀	tl	低位段丘堆積物	
		A	青葉山安山岩類	
		O	大山安山岩	
		Qd	石英閃緑岩	
		新第三紀	Ui	今戸鼻層
			Uk	内浦層
			Us	下
上	高浜頁岩部層			
Ry	音海流紋岩			
中生代	白亜紀	Nss	流紋岩, 流紋岩質凝灰岩	
		Nsh	砂岩	
		Na1	頁岩	
	三疊紀	UT sh	難波江層群	
		Mss	砂岩	
		Msh	頁岩	
		Mgs	頁岩	
		Osh	砂岩	
		Ysh	頁岩	
		Yfs	珪長岩	
古生代	ペルム紀	Ygd	夜久野ワカ7付	
		Ygs	緑色岩類	
		Ymg	変斑れい岩	
		Yu	超苦鉄質岩	
		An	安山岩	



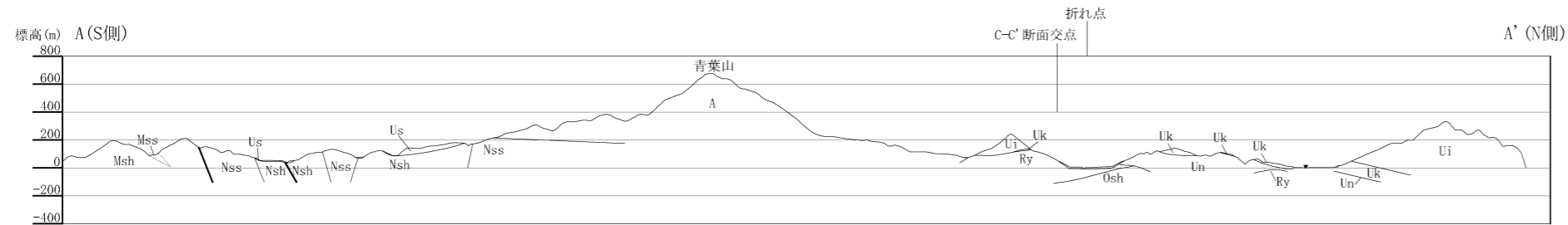
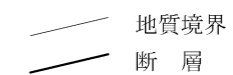
「この地図の一部につき、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情復、第259号)」

第1.2.3.2.1図 敷地近傍の地質図

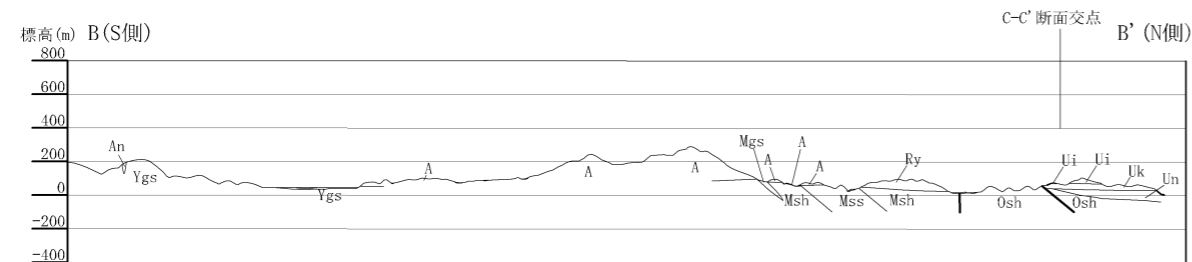
地質凡例

地質時代	記号	地層名等	主要構成地層		
新生代	第四紀	更新世	r 人工改変地		
		完新世	a 沖積層	礫, 砂, シルト, 粘土	
			f 新期扇状地堆積物	礫, 砂, シルト	
			tl 低位段丘堆積物	礫, 砂, シルト	
	新第三紀	A 青葉山安山岩類	安山岩, 凝灰角礫岩		
		O 大山安山岩	安山岩, 凝灰角礫岩		
		Qd 石英閃緑岩	石英閃緑岩		
		Ui 今戸鼻層	安山岩, 凝灰角礫岩		
		内浦層群	下層	神野浦頁岩部層	泥岩
			Us Un	塩浜峠礫岩・砂岩部層 名島火山岩部層	礫岩, 砂岩 安山岩, 凝灰角礫岩
中生代	白亜紀	Ry 音海流紋岩	流紋岩, 流紋岩質凝灰岩		
	三畳紀	Nss	難波江層群	砂岩	
		Nsh		頁岩	
		Na1		砂岩頁岩互層	
古生代	ペルム紀	UTsh 大飯層 (UT2コンプレックス)	頁岩		
		舞鶴層群	Mss	砂岩	
			Msh	頁岩	
			Mgs	緑色岩類	
	Osh 大浦層	頁岩			
	ペルム紀	夜久野オフィオライト	Ysh	頁岩	
			Yfs	珪長岩	
			Ygd	石英閃緑岩	
			Ygs	緑色岩類	
			Ymg	変斑れい岩	
Yu			超苦鉄質岩		
新第三紀～白亜紀後期	An	岩脈	安山岩		

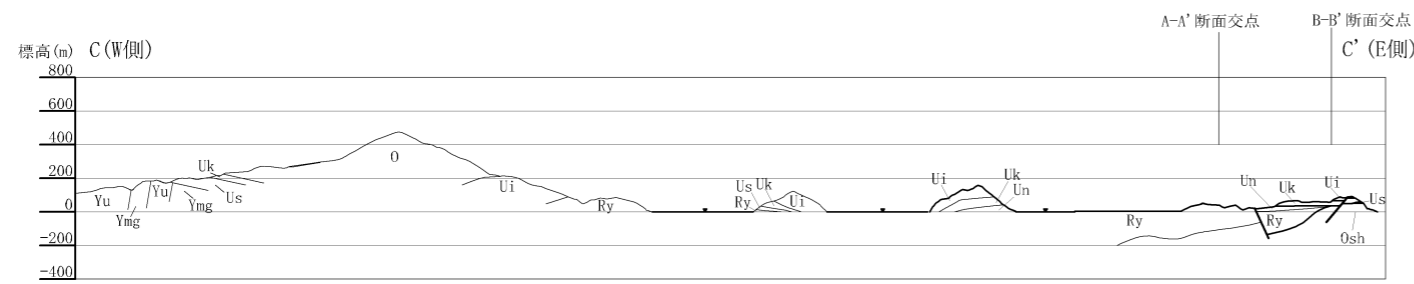
断面位置は第1.2.3.2.1図に示す。



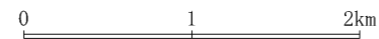
高浜 A-A' 断面



高浜 B-B' 断面

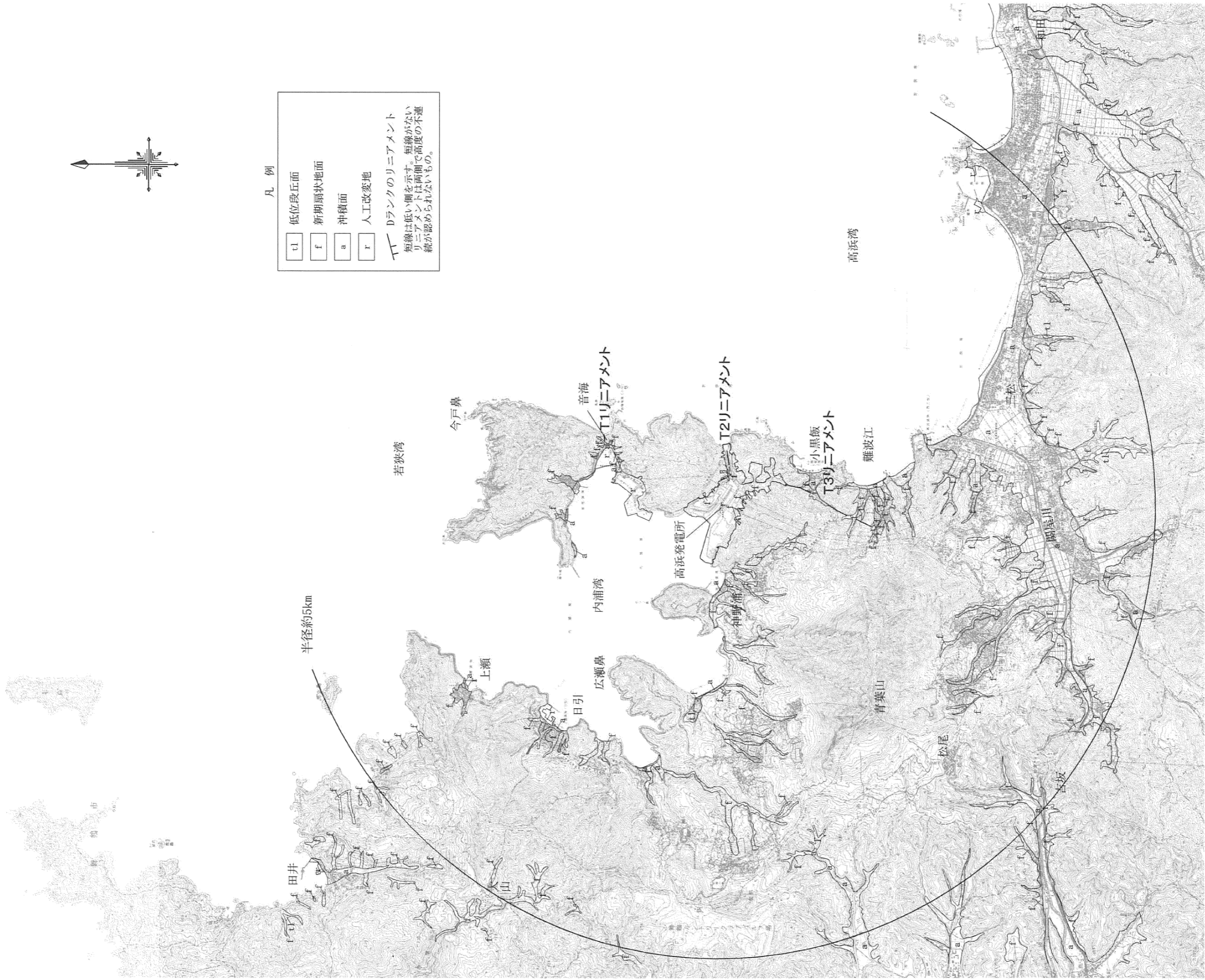


高浜 C-C' 断面



第1.2.3.2.2図 敷地近傍の地質断面図



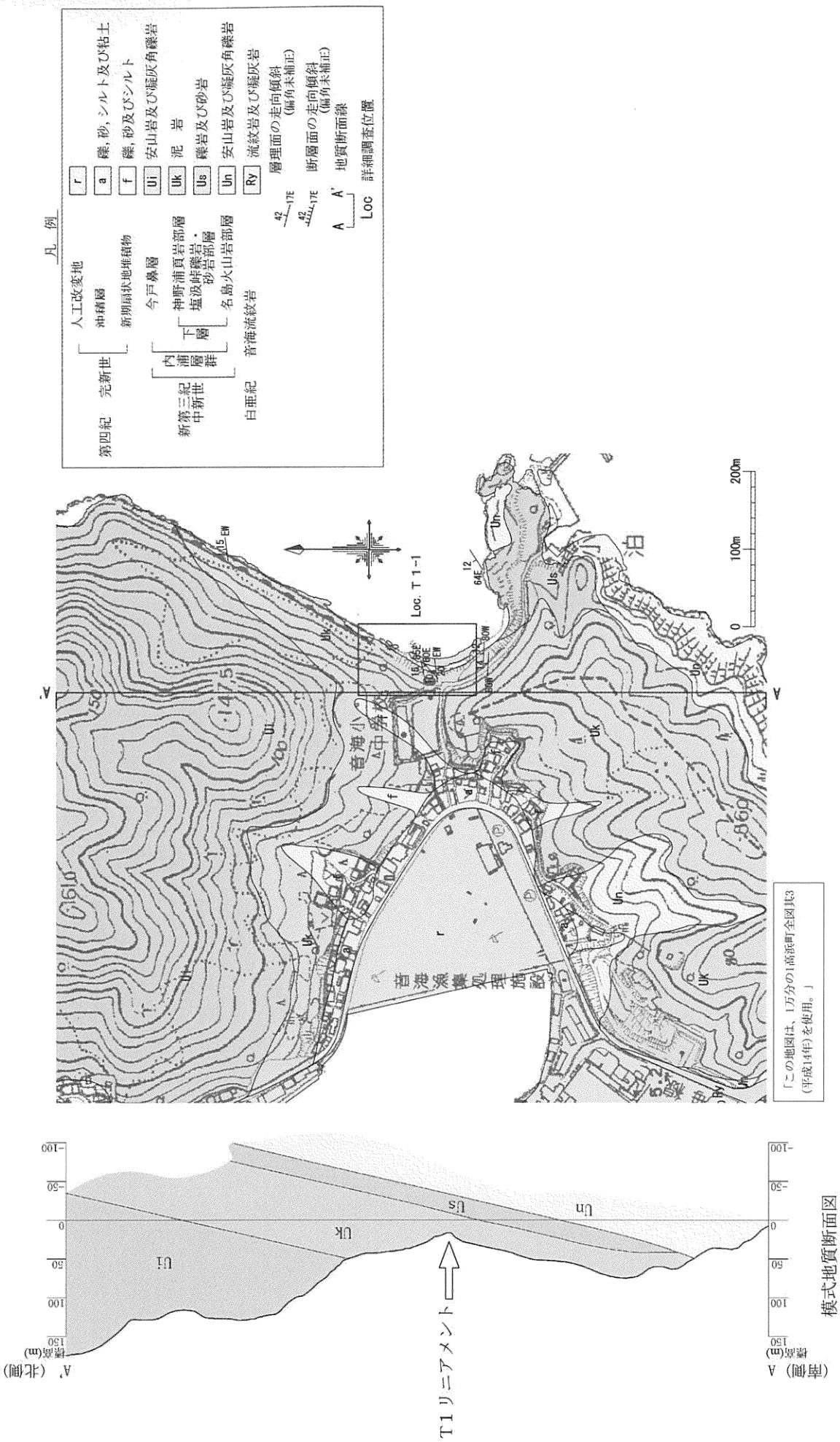


- 凡 例
- t1 低位段丘面
  - f 新期扇状地面
  - a 沖積面
  - r 人工改変地
  - Dランクのリニアメント  
短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。

「この地図の一部につき、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。  
(承認番号 平26情復、第211号)」

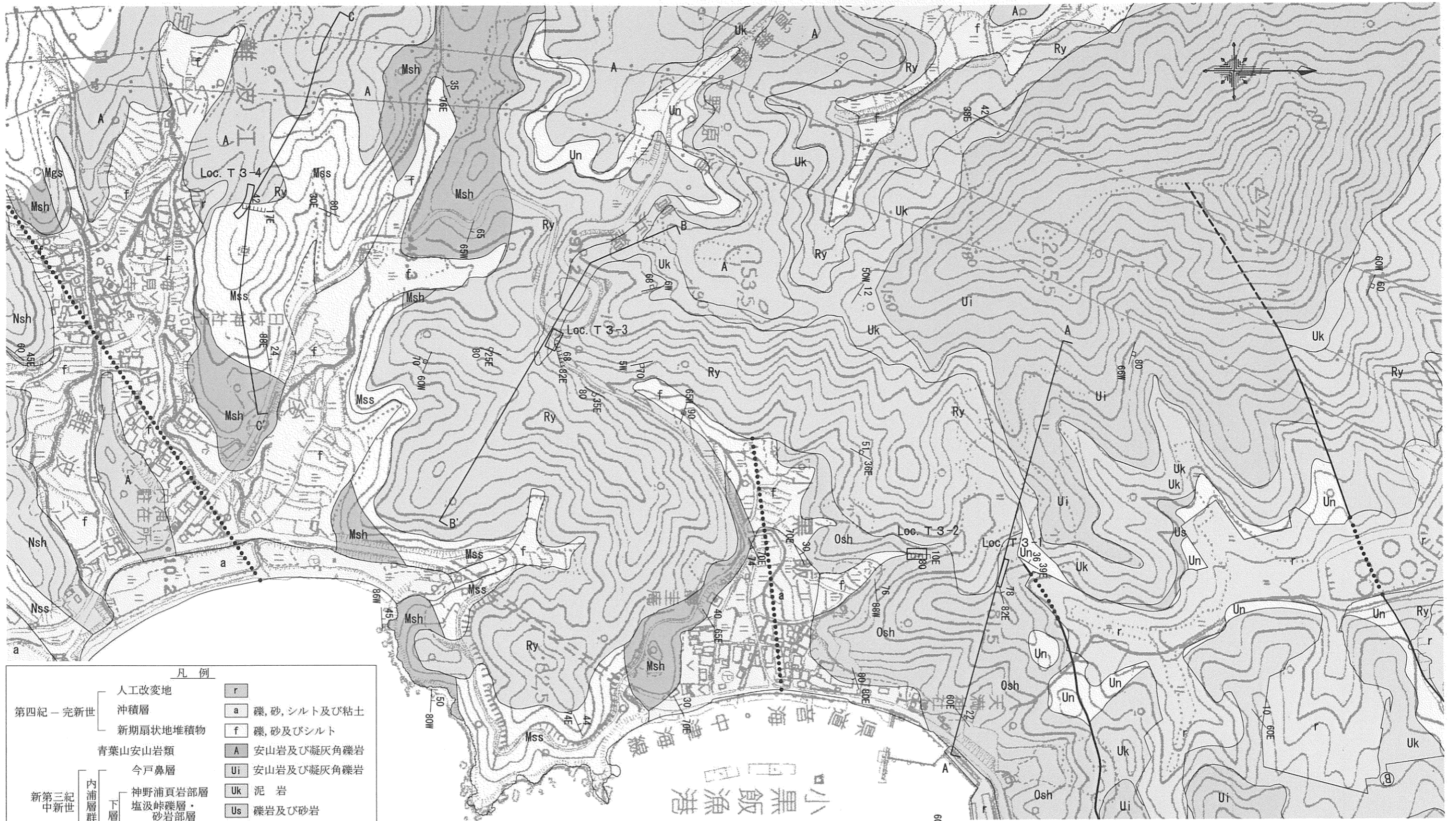
第1.2.3.2.3図 敷地近傍の地形調査結果





第1.2.3.2.4図 T1 リニアメント周辺の地質図



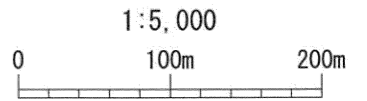


凡例

第四紀 - 完新世	人工改変地	r
	沖積層	a
	新期扇状地堆積物	f
青葉山安山岩類	A	安山岩及び凝灰角礫岩
新第三紀	今戸鼻層	Ui
中新世	内浦層群	Uk
	下層	Us
	神野浦頁岩部層	Un
	塩浜峠礫層・砂岩部層	Ry
	名島火山岩部層	Ry
白亜紀	音海流紋岩	Ry
三疊紀	舞鶴層群	Nsh
	舞鶴層群	Nss
	舞鶴層群	Msh
	舞鶴層群	Mss
ペルム紀	舞鶴層群	Mgs
	大浦層	Osh

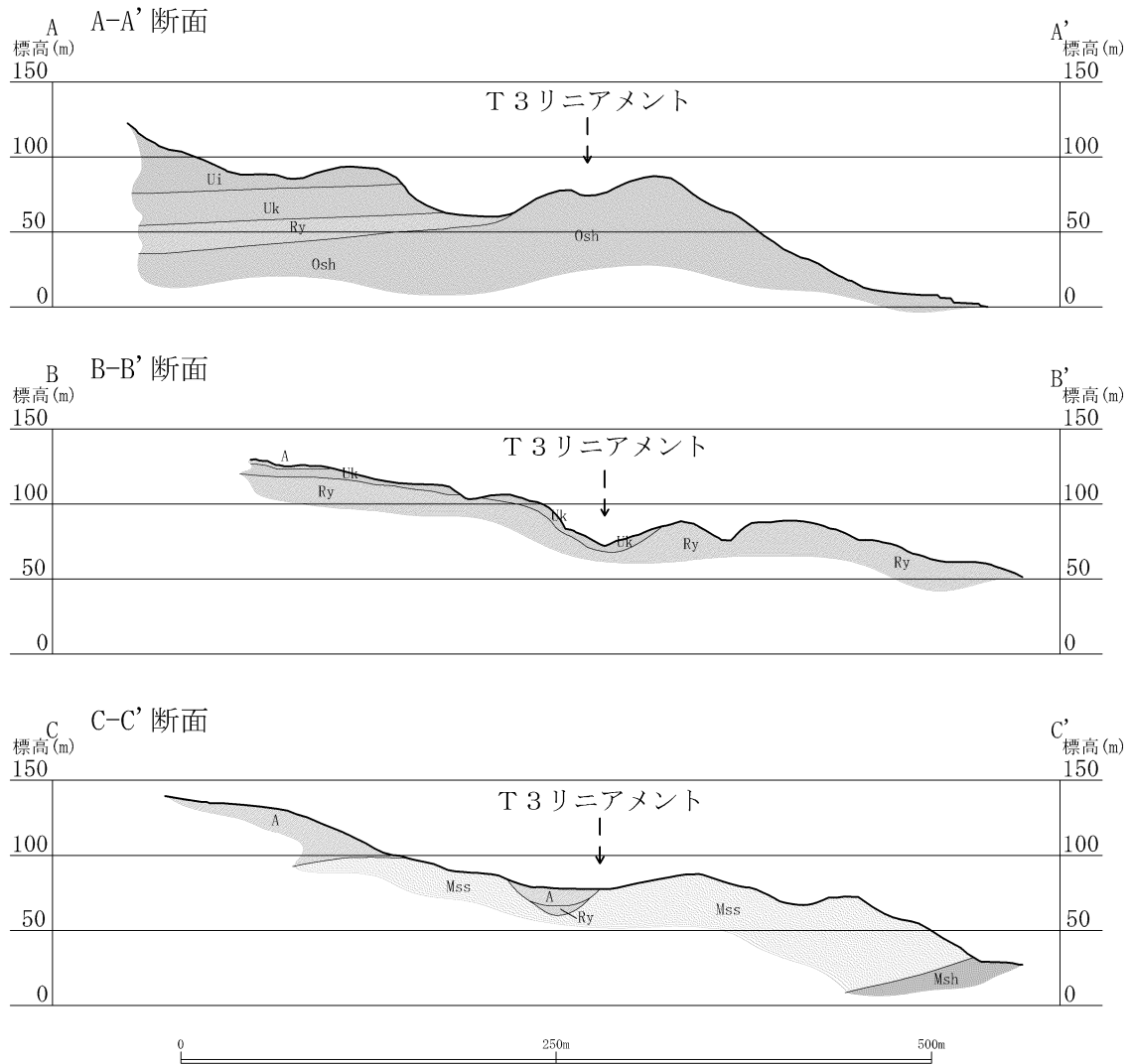
—	断層
- - -	推定断層
●●●	伏在断層
$\frac{42}{17E}$	層理面の走向傾斜(偏角未補正)
$\frac{42}{17E}$	割れ目の走向傾斜(偏角未補正)
$\frac{42}{17E}$	断層面の走向傾斜(偏角未補正)
A	A' 地質断面図作成位置
Loc	Loc 詳細調査位置 (スケッチ・ルートマップ)

「この地図は、1万分の1高浜町全図其3 (平成14年)を使用。」



第1.2.3.2.5図 T3リニアメント周辺の地質図





凡 例		
A	安山岩及び凝灰角礫岩	} 青葉山安山岩類
Ui	安山岩及び凝灰角礫岩	
Uk	泥 岩	} 内浦層群
Ry	流紋岩及び凝灰岩	
Msh	頁 岩	} 舞鶴層群
Mss	砂 岩	
Osh	頁 岩	} 大浦層

断面位置は第1.2.3.2.5図に示す。

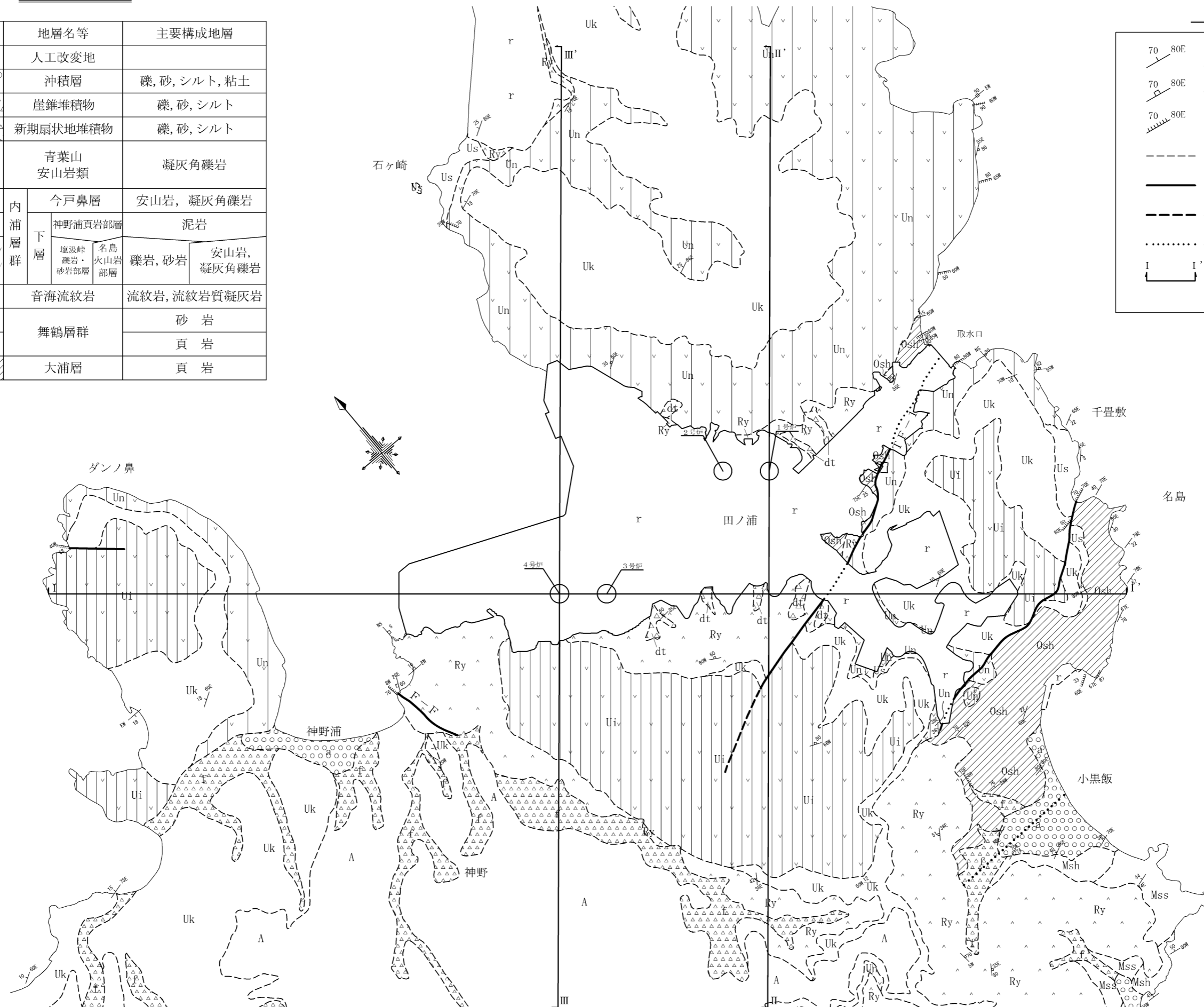
第1.2.3.2.6図 T3リニアメント周辺の地質断面図

地質凡例

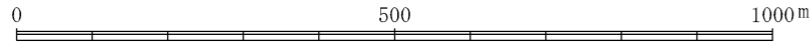
地質時代		記号	地層名等	主要構成地層	
新 代	第四紀 完 新 世	r	人工改変地		
		○ a ○	沖積層	礫, 砂, シルト, 粘土	
		△ dt △	崖錐堆積物	礫, 砂, シルト	
		△△ f △△	新期扇状地堆積物	礫, 砂, シルト	
生 代	新第三紀	A	青葉山 安山岩類	凝灰角礫岩	
		U <sub>i</sub>	内 浦 層 群	今戸鼻層	安山岩, 凝灰角礫岩
		U <sub>k</sub>	下 層	神野浦頁岩部層	泥岩
		U <sub>s</sub> U <sub>n</sub>	塩波峠 礫岩・ 砂岩部層	名島 火山岩 部層	礫岩, 砂岩 安山岩, 凝灰角礫岩
中生代	白亜紀	Ry	音海流紋岩	流紋岩, 流紋岩質凝灰岩	
古 生 代	ペルム紀	Mss	舞鶴層群	砂 岩	
		Msh		頁 岩	
		Osh	大浦層	頁 岩	

記号凡例

	層理面の走向傾斜(偏角未補正)
	割れ目の走向傾斜(偏角未補正)
	断層面の走向傾斜(偏角未補正)
	地質境界
	断層
	推定断層
	伏在断層
	断面位置

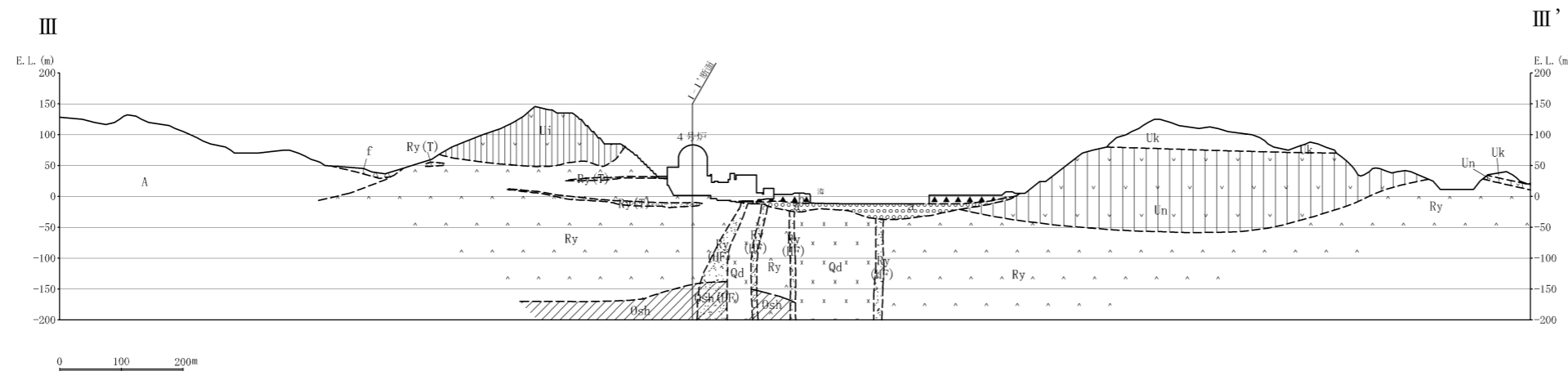
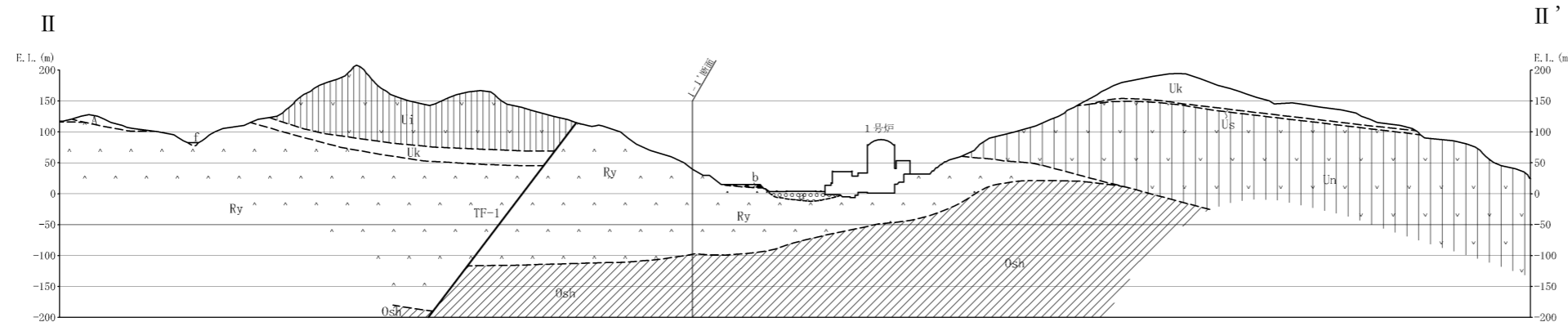
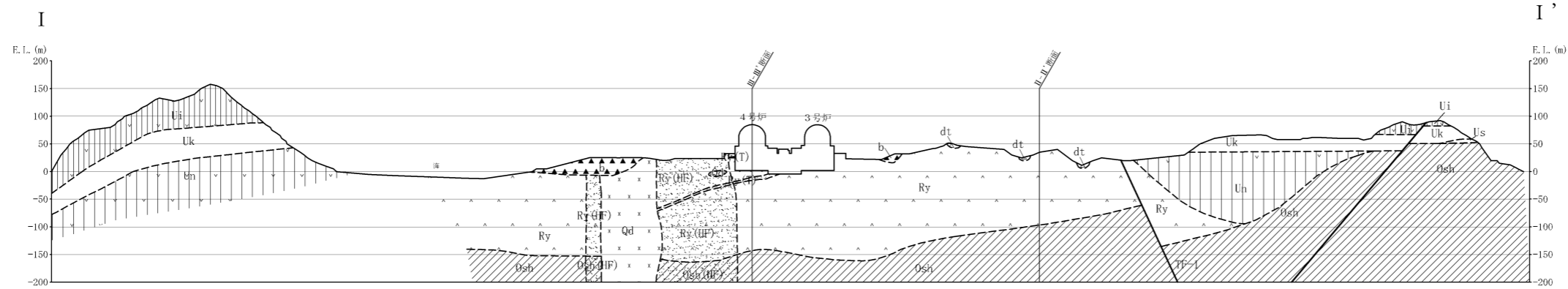


1:10,000



第1.2.3.3.1図 敷地の地質図





凡例	
	盛土
	沖積層
	崖錐堆積物
	新期扇状地堆積物
	青葉山安山岩類
	石英閃緑岩
	安山岩及び凝灰角礫岩 (今戸鼻層)
	泥岩(神野浦頁岩部層)
	礫岩・砂岩 (潮波峠礫岩・砂岩部層)
	安山岩及び凝灰角礫岩 (名島火山岩部層)
	流紋岩
	流紋岩質凝灰岩
	流紋岩(接触変成部)
	頁岩
	頁岩(接触変成部)
	地質境界
	断層

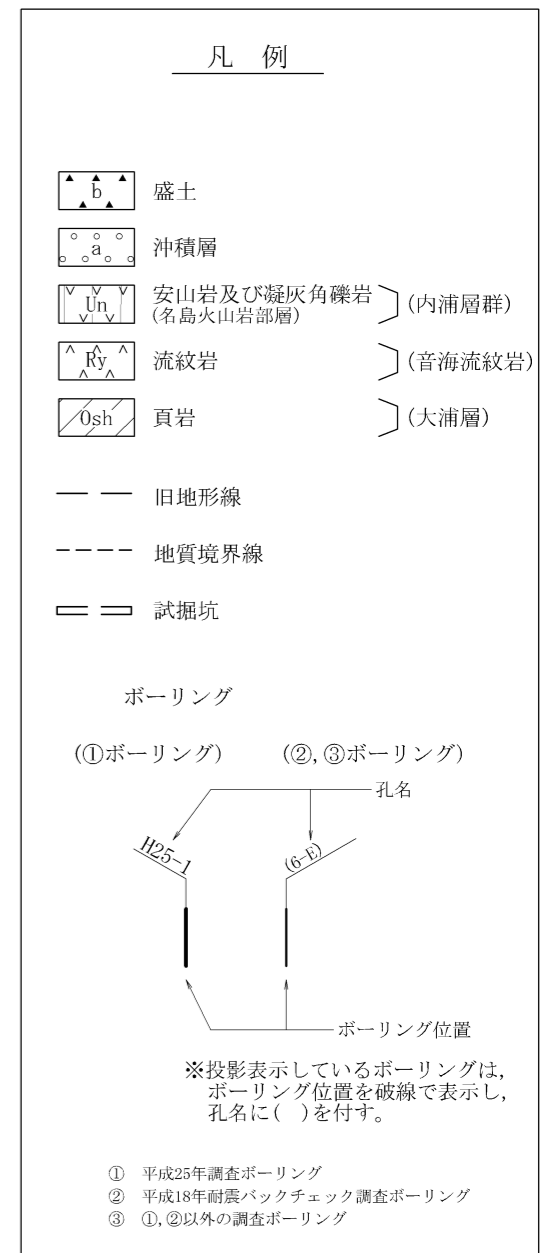
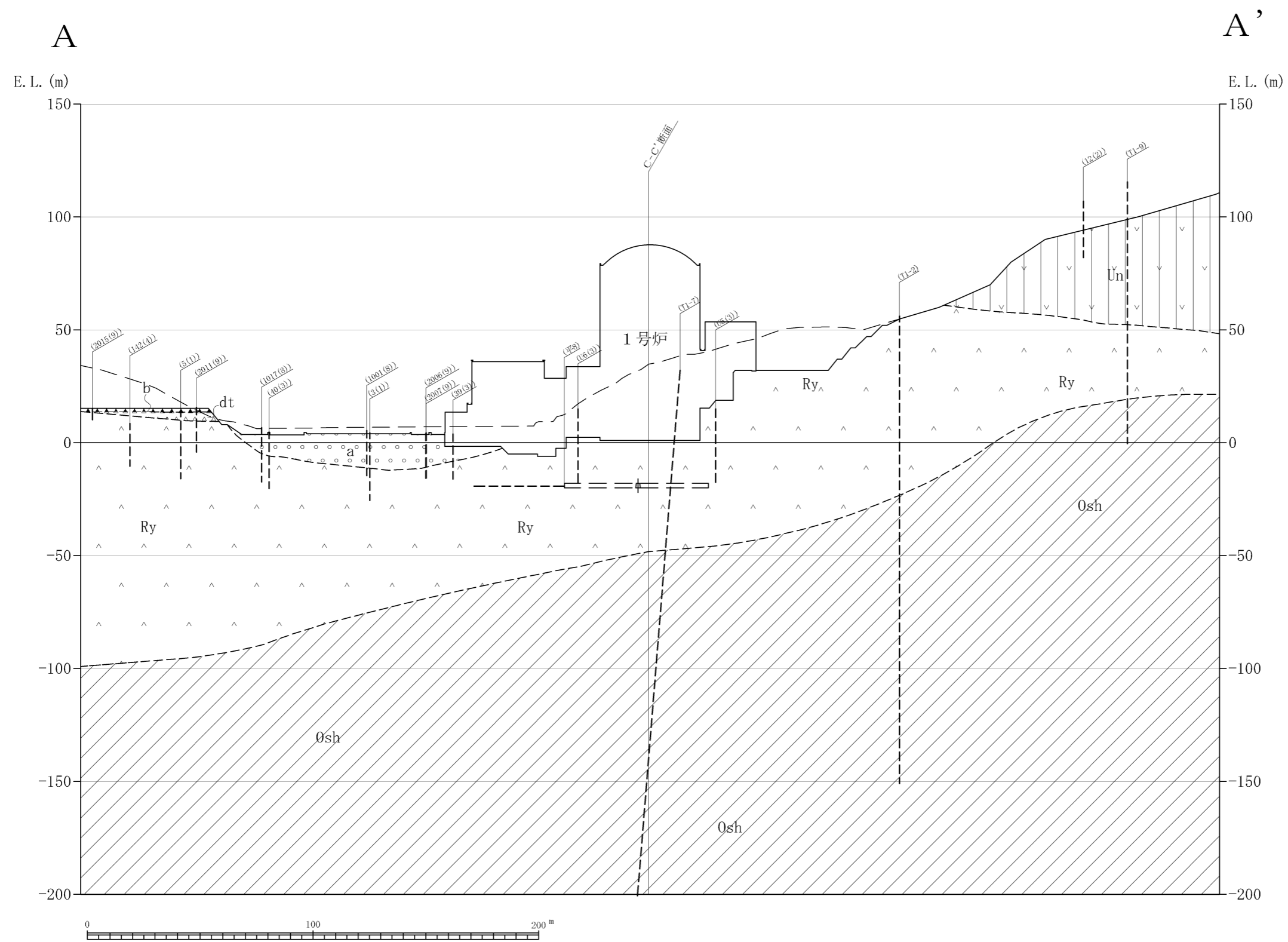
※地質平面図で人工改変地(r)としている部分は、実際に分布する地質で表現した。

※断面図作成位置は第1.2.3.3.1図に示す。

第1.2.3.3.2図 敷地の地質断面図





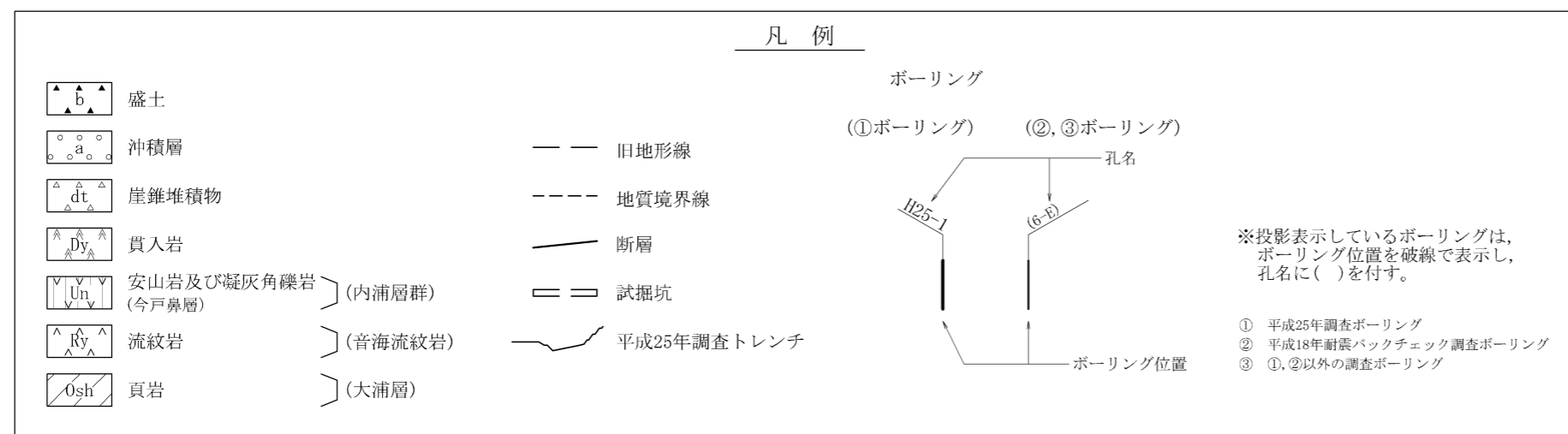
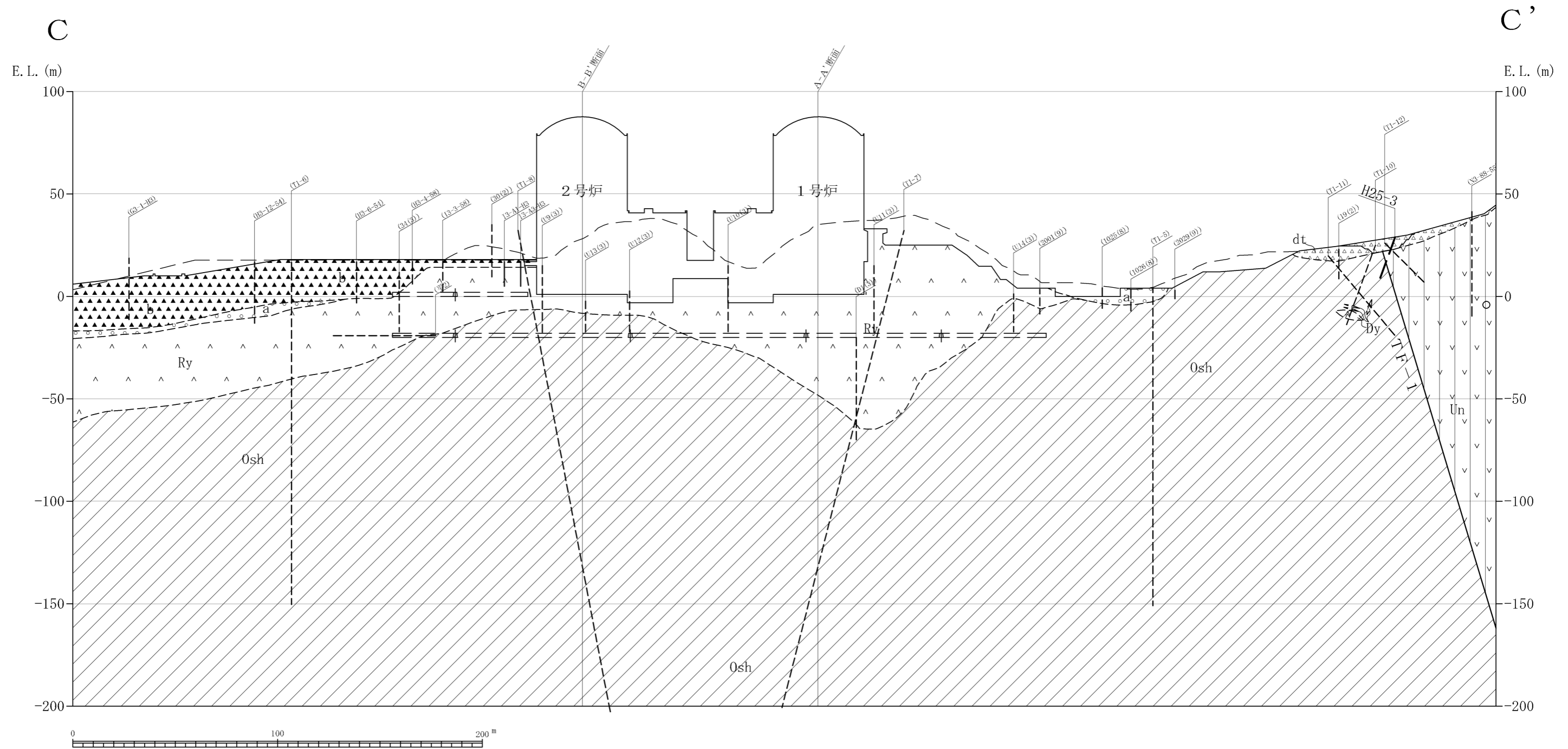


※断面図作成位置は第1.2.3.3.3図に示す。

第1.2.3.3.4図(1) 地質鉛直断面図 (A-A' 断面図)

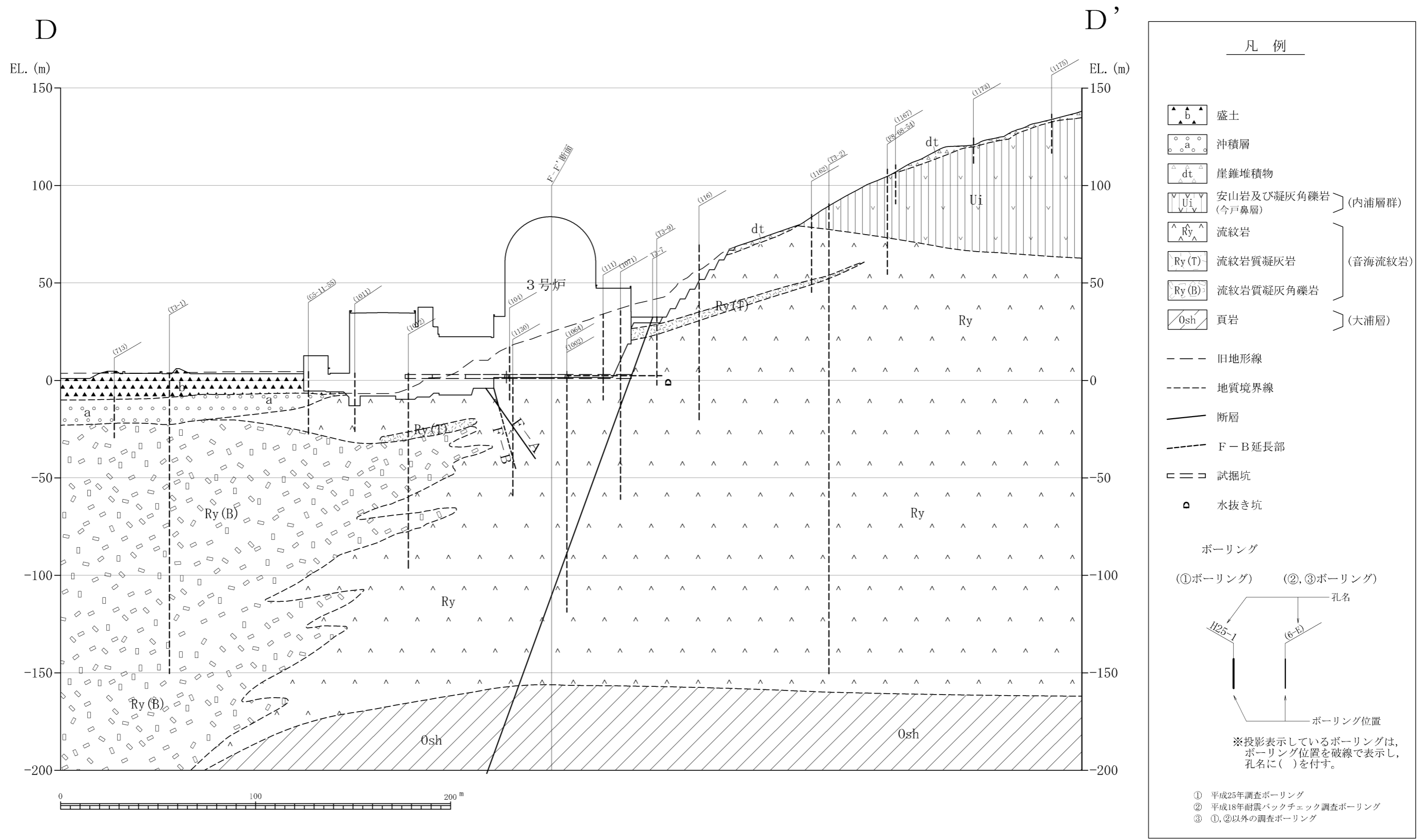






第1.2.3.3.4図(3) 地質鉛直断面図 (C-C' 断面図)

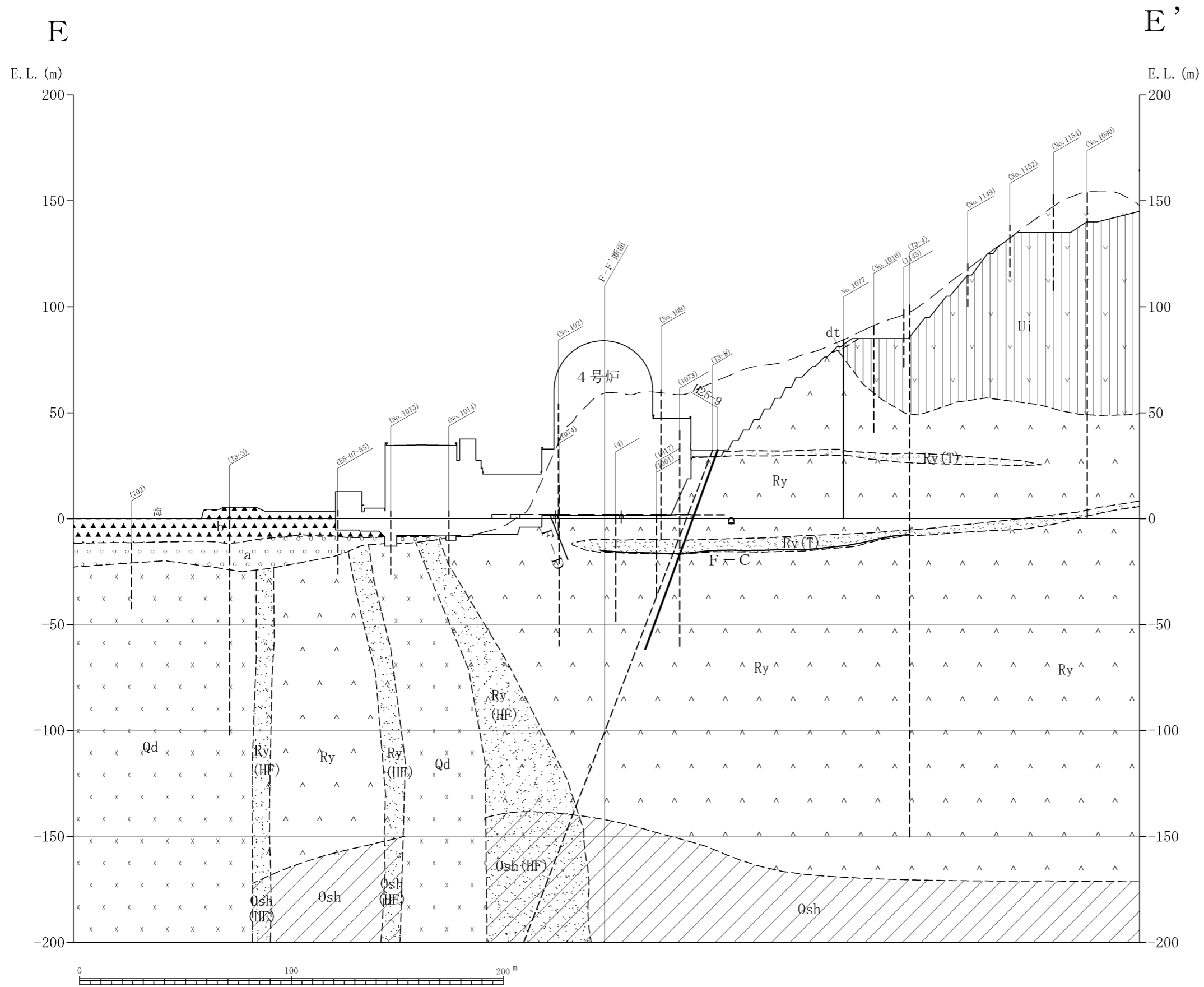
※断面図作成位置は第1.2.3.3.3図に示す。



※断面図作成位置は第1. 2. 3. 3. 3図に示す。

第1.2.3.3.4図(4) 地質鉛直断面図 (D-D' 断面図)



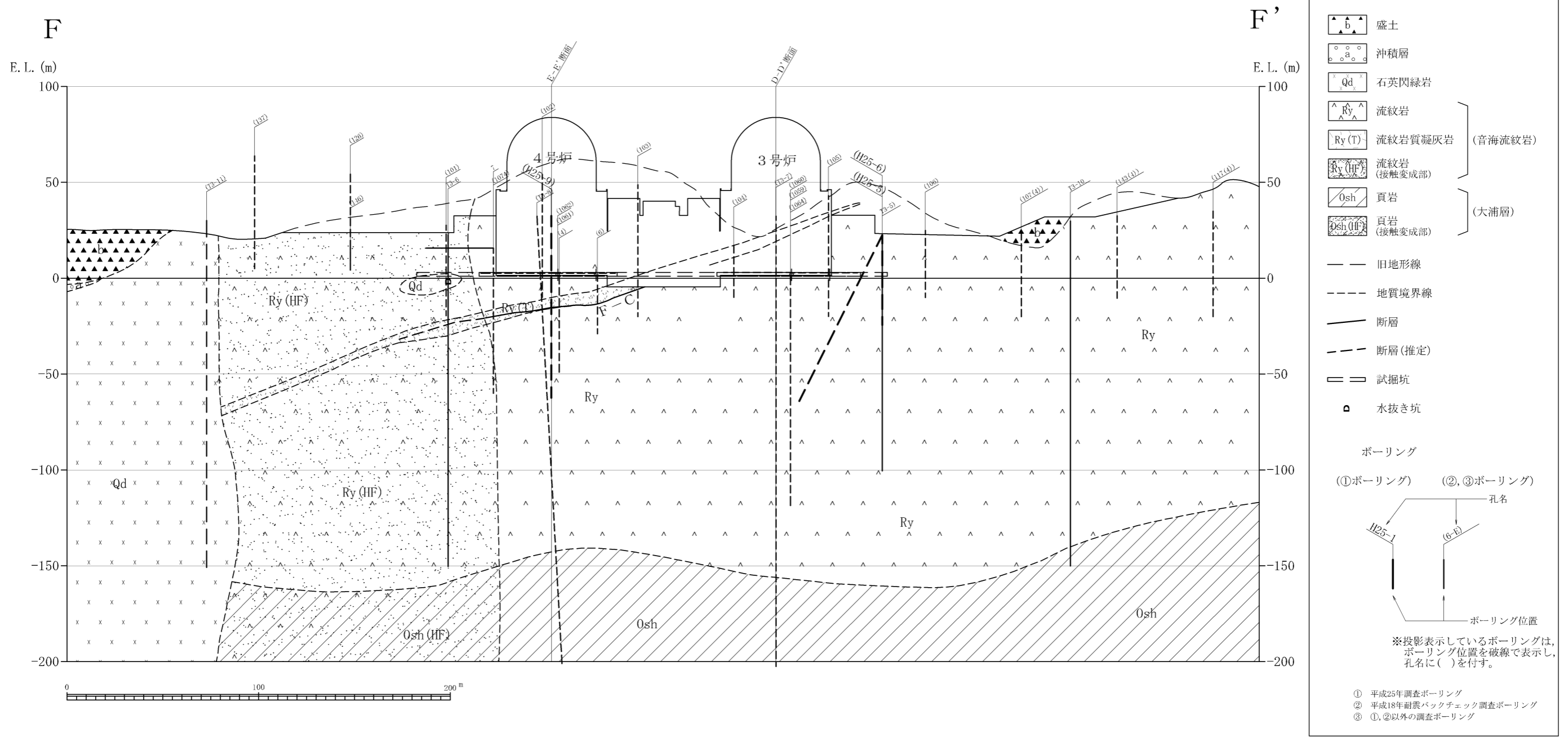


凡 例

	盛土	
	沖積層	
	崖錐堆積物	
	石英閃緑岩	
	安山岩及び凝灰角礫岩 (今戸鼻層)	(内浦層群)
	流紋岩	(音海流紋岩)
	流紋岩質凝灰岩	
	流紋岩 (接触変成部)	(大浦層)
	頁岩	
	頁岩 (接触変成部)	
	旧地形線	
	地質境界線	
	断層	
	試掘坑	
	水抜き坑	
ボーリング		
	①ボーリング	孔名
	②, ③ボーリング	
		ボーリング位置
※投影表示しているボーリングは、ボーリング位置を破線で表示し、孔名に( )を付す。		
①	平成25年調査ボーリング	
②	平成18年耐震バックチェック調査ボーリング	
③	①, ②以外の調査ボーリング	

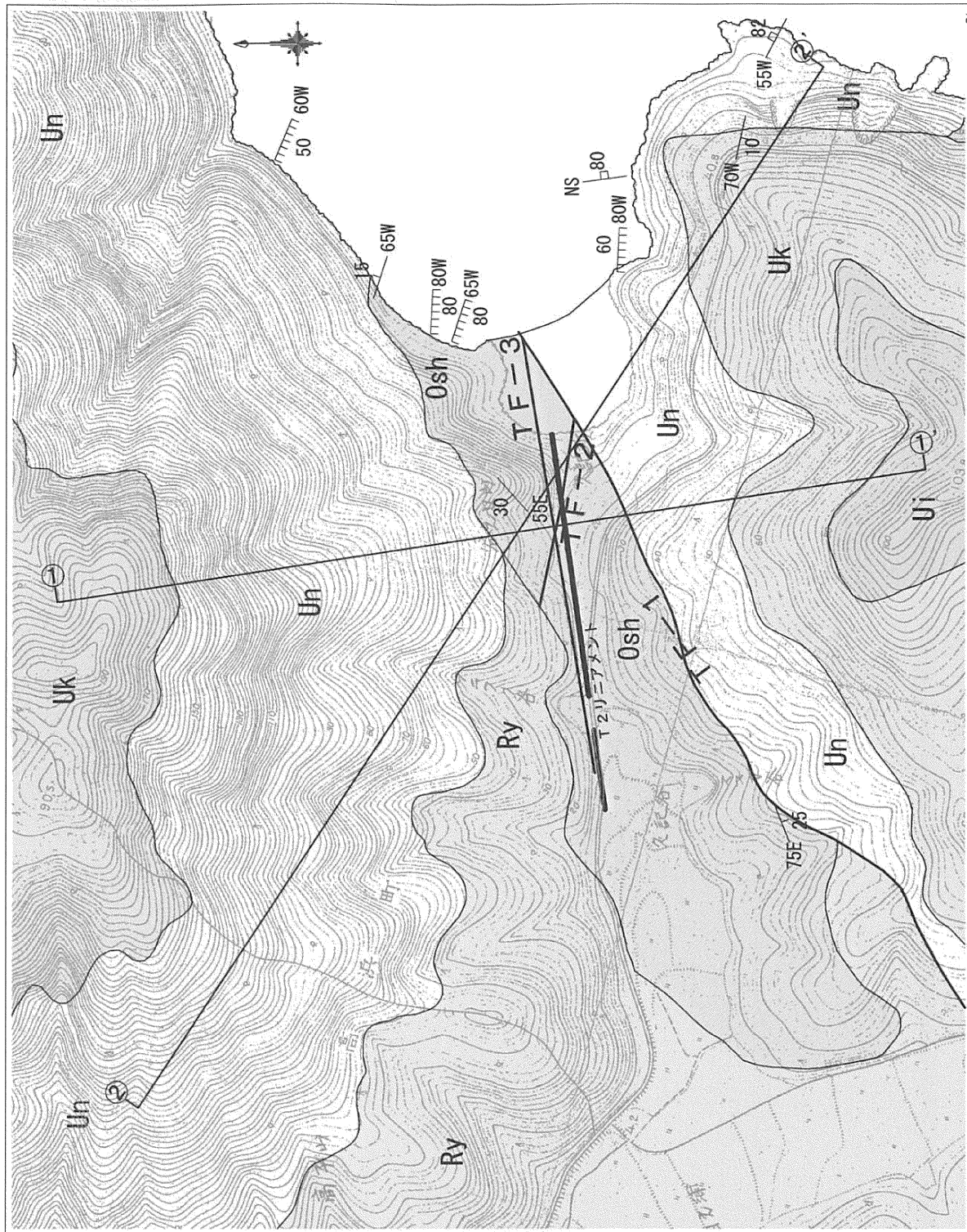
※断面図作成位置は第1.2.3.3.3図に示す。

第1.2.3.3.4図(5) 地質鉛直断面図 (E-E' 断面図)

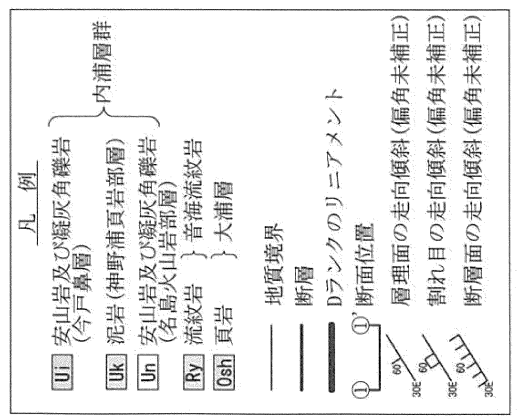


第1.2.3.3.4図(6) 地質鉛直断面図 (F - F' 断面図)

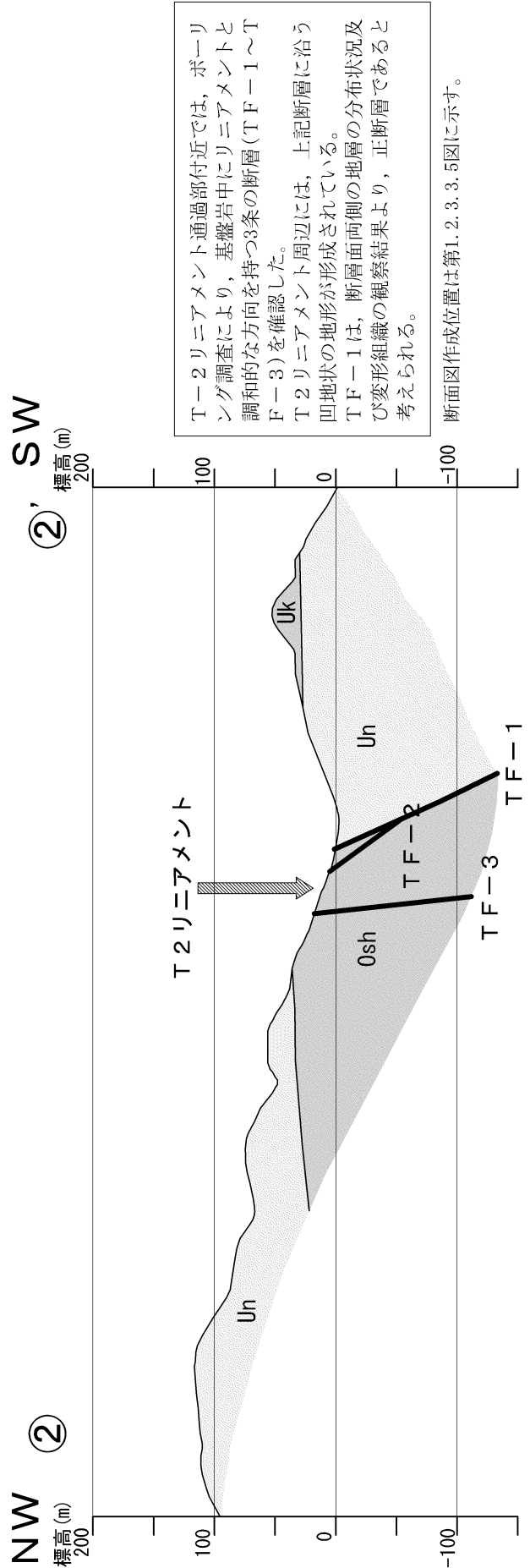
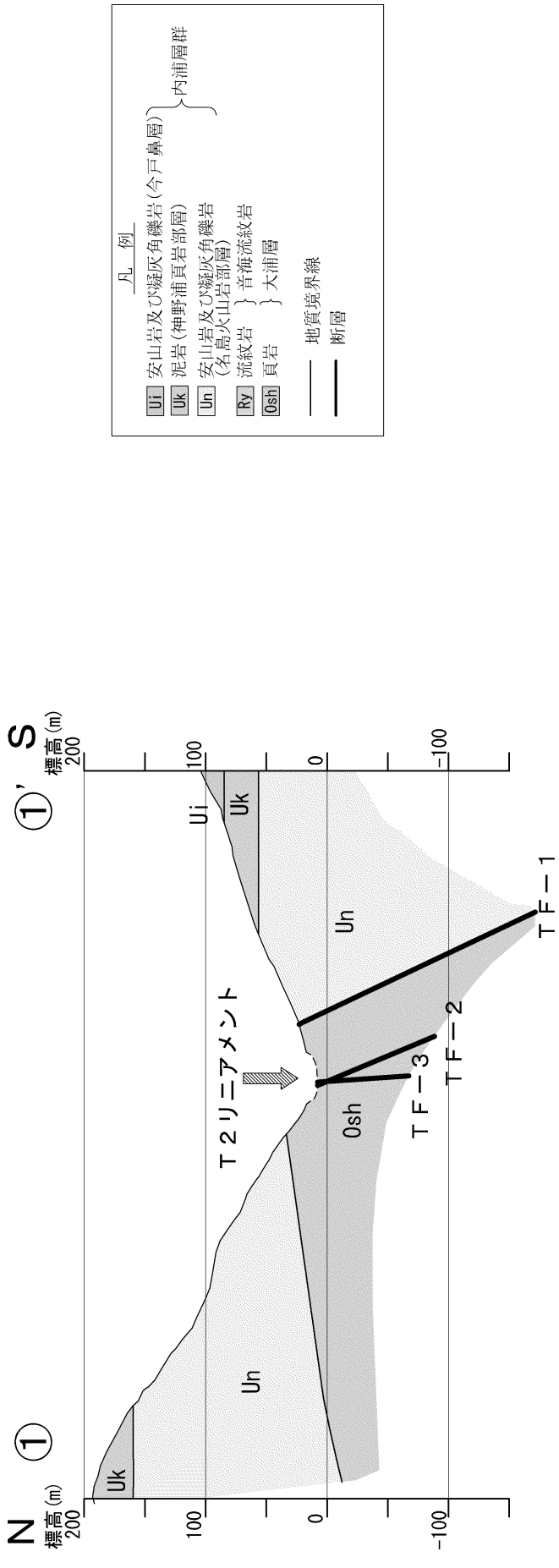




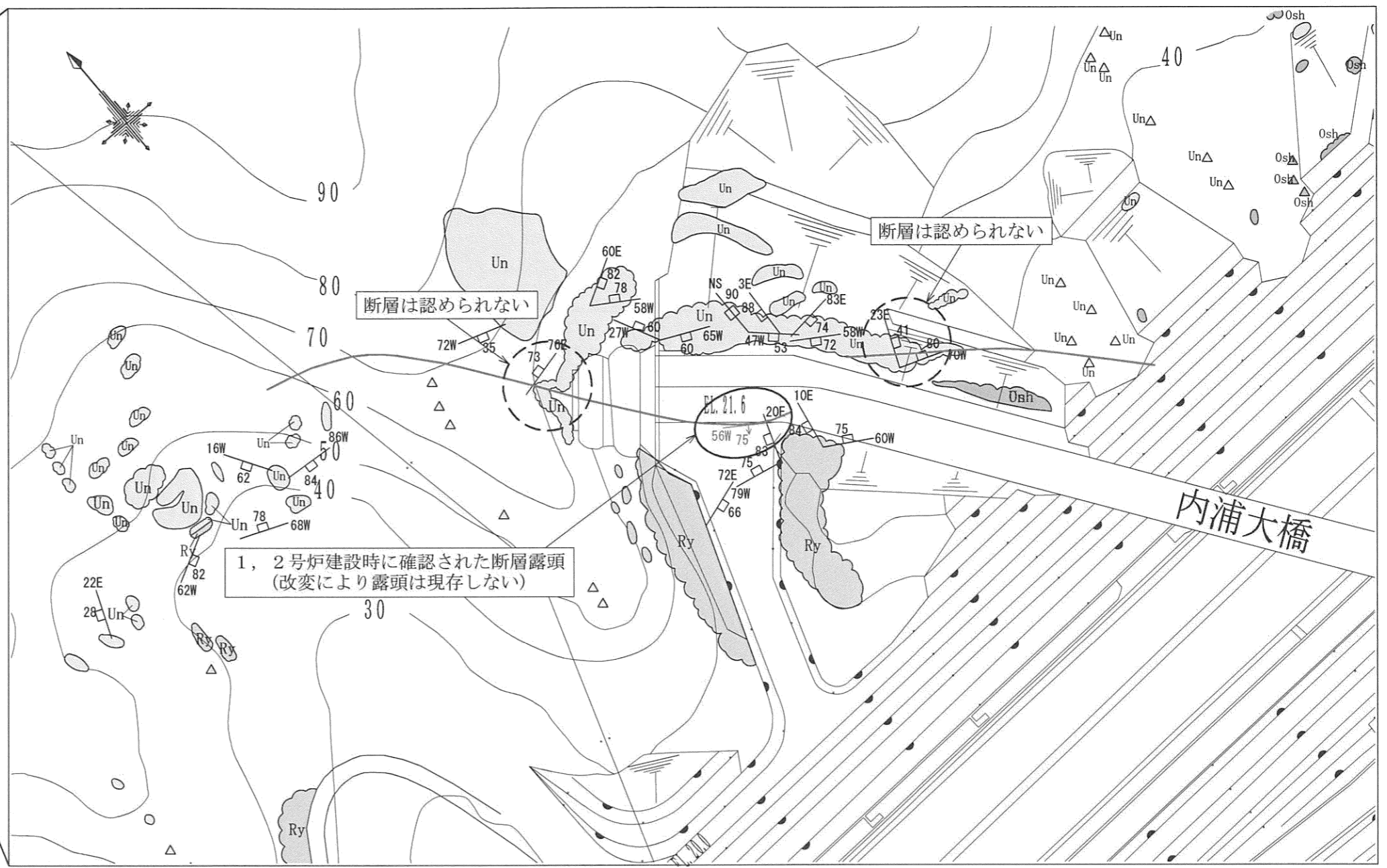
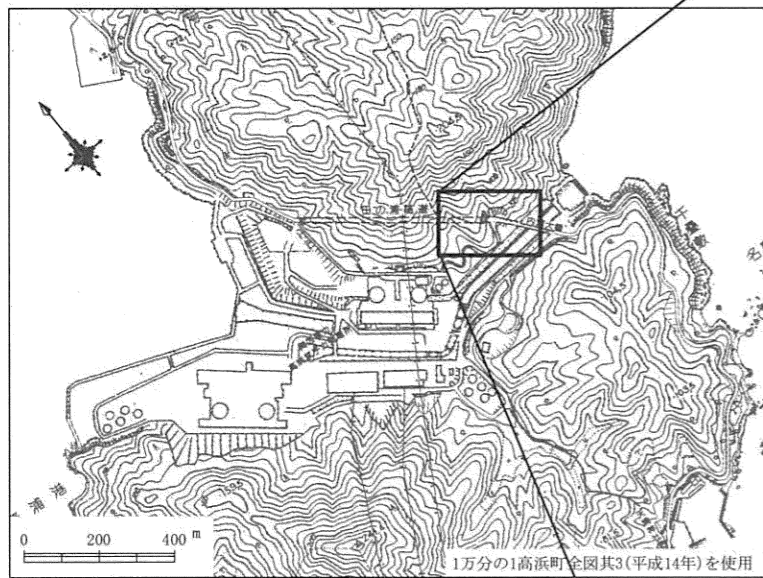
※この地形図は昭和43年度第三次地形地質調査工事において作成した地形図を使用  
 ※T2リニアメントを転記して表示



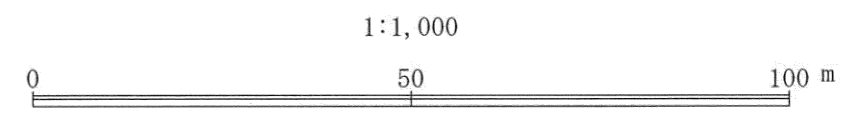
第1.2.3.3.5図 T2リニアメント周辺の基盤岩分布図



第1.2.3.3.6図 T2リニアメント周辺の基盤岩地質断面図



- 建設時の設置許可申請書では、「内浦層群中には断層、破碎帯は極めて少なく、県道トンネル入口で破碎帯の幅が10cm程度の小規模な断層が確認されたのみである。」と記載されている。
- 北側延長上のトンネル坑口上方斜面及び南側延長上の県道の擁壁上方に分布する内浦層群名島火山岩部層の連続露頭に断層は認められない。
- 建設時の設置許可申請書に記載された断層に相当する変動地形は認められない。



凡例

	1, 2号炉建設時に確認された断層露頭(音海流紋岩)
	露頭(内浦層群名島火山部層)
	露頭(大浦層頁岩)
	転石(内浦層群名島火山部層)
	転石(大浦層頁岩)
	節理面の走向傾斜
	1, 2号炉建設時に確認された断層露頭位置及び、断層面の走向傾斜

第1.2.3.3.7図 田ノ浦トンネル東側坑口付近ルートマップ